

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No.10



雀の滑り台

A slide for sparrows

河野 憲太郎

元 新潟大学教授



話は大変に古くて恐縮だが、昭和15年1月の末頃、所は広島県三原市の叔父の家の2階、私は高校入試を控えて勉強に余念がなかった。瀬戸内の冬は上天気続きで、風もないうららかな午後だったが、試験が迫っているので眠いどころではなかった。

ふと、先刻から雀達がしきりに騒いでいるのに気付いた。けんかの鳴き方ではないがかなりやかましい。何をしているのだろうと目を上げると、向いの家の瓦屋根の棟に7~8羽集まって浮かれている気配だ。目を凝らして見てあと思った。屋根の左端の斜面を1羽が翼をばたつかせながら滑り落ちたのだ。雀も屋根から落ちるか可笑しくなって見ていると、雨樋の所まで来てぱっと飛び上がり、左側の壁の方から棟に舞い戻った。これで終わったのなら過ぎて落ちたのだと思っただろう。

ところが次の雀がちょんちょん移って来て跳び降りたのだ。両脚を突っ張り羽根をばたばたさせて尻で滑るのである。それが戻ると次のが…。信じられない思いで見るとやがて一斉に飛び去った。

その後このような光景に会っていない。しかしあれは白昼夢ではない。こんなに小さな鳥が純粹に遊ぶのだ。私には小鳥が単なる愛らしいものではなくなった。高知高校在学中は和鳥にひかれて、うぐいす、大るり、駒鳥の3鳴鳥を始め黄びたき、目白、山雀等々手当り次第に飼ひ、馴れたものを部屋に放し、その気ままな行動を眺めて楽しんだ。雀も学徒動員で駆り出される4ヶ月前、親に追い出されて防火用水の水槽に落ち込んだ指の曲がった子雀を助け、わずか数日間だったが深く心を通わせた。

一昨年65才で定年を迎え、動物を実験材料として扱わなくてよい境遇に戻った。野鳥を庭に呼び寄せたくて餌台と三つの巣箱を設けた。その一つに四十雀が巣を構えてくれた。色々な小鳥達と付き合ってみてつくづく思うのは、彼らにも我々と共通の情緒や心の芽生えがあるに違いないということだ。戦後の我々は上面の豊かさに心を奪われやたらに自然を壊しかつ汚している。都市型の鳥達はそれでも逞しく生きるだろうが自然を住処とする鳥達はどう思っている事だろう。知恵だけが先走っている人類の罪深さを思っ肌寒くなるこの頃である。

目次

表紙・ヘビクイワシ…………… 1

どうぶつと私(6)「雀の滑り台」…………… 2

グラビア マレーバク…………… 3

特集 ヘビ…………… 4

第5回サマースクール…………… 5

飼育レポート
グレビーシマウマ…………… 6

動物公園の動物⑥…………… 7

動物公園の施設⑥…………… 7

動物公園日誌から…………… 8

飼育よもやま話…………… 10

健康管理センターから…………… 11

表紙の動物説明

ヘビクイワシ

ツルのように長い脚とほっそりした体つきは大変優雅にみえますが、その長い脚でアフリカの草原を歩きまわり、トカゲ、カエル、ヘビ、昆虫などの小動物をすどい嘴のひと咬みや素早い脚の一撃で捕えるようすは、その精悍な顔つき同様、猛禽そのものです。

一日の大半を餌を追って草原を歩きまわる地上性の強い鳥ですが、求愛の時は空中を優雅に舞う独特の行動をとり、又、かなりの長距離を飛ぶこともできます。

撮影 松野正雄

動物飼育数

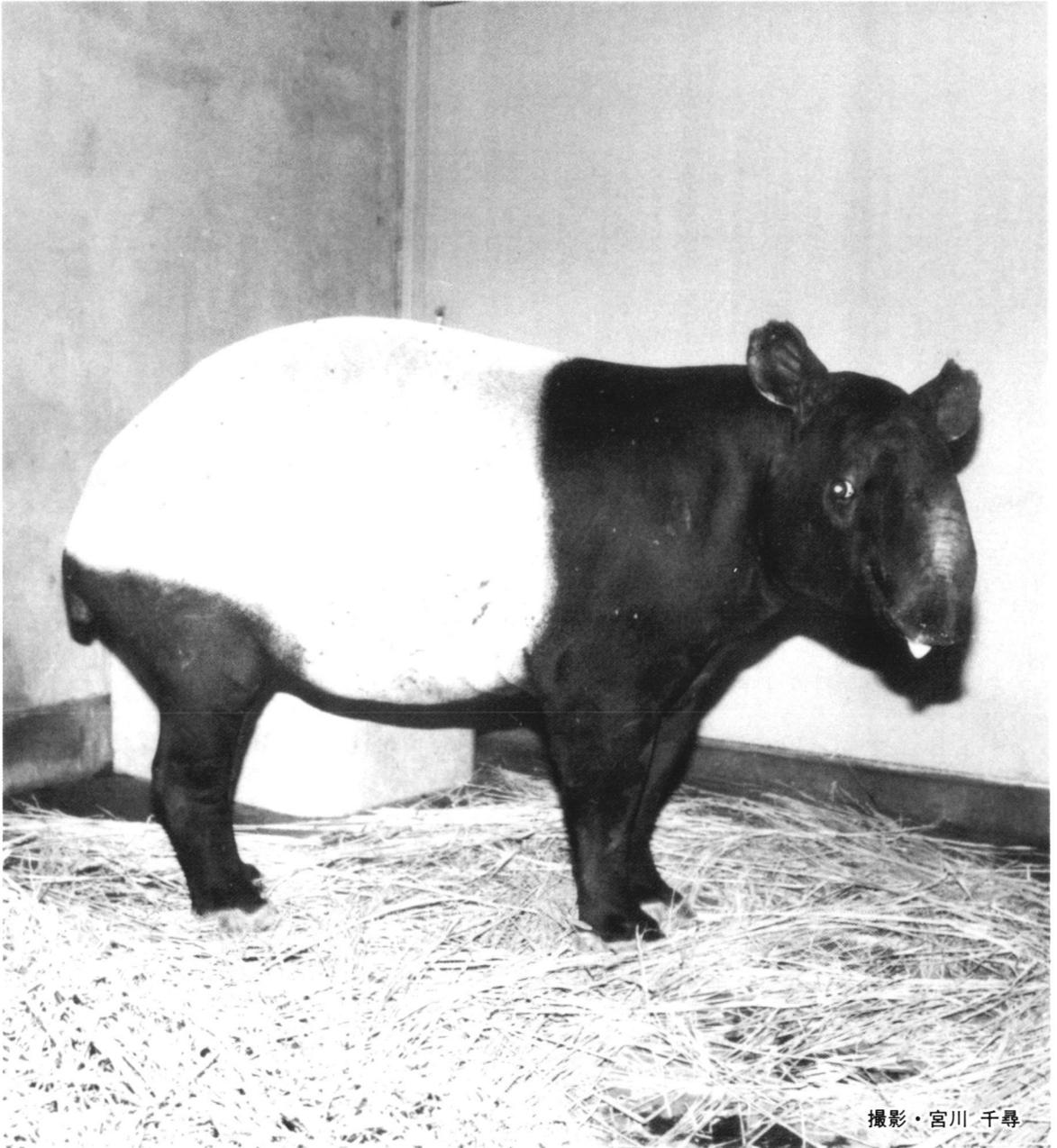
(平成元年7月31日現在)

哺乳類	82種	466点
鳥類	100種	450点
爬虫類	4種	21点
両生類	2種	3点
魚類	1種	2点
総計	189種	942点

マレーバク

Malayan Tapir

奇蹄目 バク科



撮影・宮川 千尋

マレーバクのお嫁さんがお目見えしました。生息地である東南アジアの熱帯雨林の減少と共にその数も激減し、今では保護動物に指定され、厳しく保護されています。わが国でも22頭が飼育されているに過ぎませんので、タイの国立動物園で繁殖したものを譲っていただきました。国内の動物園同志も協力しあって繁殖させる努力を続けております。本園も協力してマレーバクの繁殖に力を入れていきたいと思っています。

(宗近 功 Isao Munechika)

特集
Feature

へ ビ
Snakes

●はじめに

へびは他の動物に比べ、一般にきらわれることが多いのですが、危険なのは毒へびに限られ、大型のニシキへび類でも人をおそうことはまれです。

また、へびは農林業に大きな被害を与えるネズミをたべるので役立っているほか、一部がペットとして飼育されたり、皮細工にも使われています。

●種類

現在地球上には約2,400種のへびがすんでおりメクラへび類と、へび類に分けられます。

メクラへび類	メクラへび科	163種
	ホソメクラへび科	78種
	カワリメクラへび科	20種
へび類	ミジカオへび科	44種
	パイプへび科	11種
	サンビームへび科	2種
	ニシキへび科	26種
	ホア科	39種
	ヒメホア科	22種
	ヤスリミズへび科	3種
	ナミへび科	約1,570種
	コブラ科	236種
	クサリへび科	187種

●大きさ

最も長くなるへびはアミメニシキへびで約10m、最も小さいへびはロイターメクラへびで約10cmです。大半のへびは25cm～2mくらいです。

体重の重いへびはアナコンダで270kgをこえることがあります。



※1 オオアナコンダ

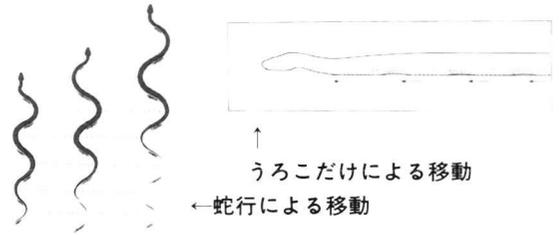
●移動方法

へびは地面に体を押しあて、波形に体をくねらせて移動します(蛇行による移動と横這い移動)。また、腹側のうろこをすべりどめに用いて体を前方に引っ張るように進みます。

●獲物のとり方

へびは、獲物を弱い視力や聴力にたよらず、におい、温度差や空気の動きなどによってさがします。

無毒のへびは獲物にかみつき、体を巻きつけしめ殺



すか、そのまま飲み込みます。毒へびは毒で獲物を弱らせてとらえます。

食物は主に、哺乳類・鳥・両生類・爬虫類・魚・昆虫などのほか、鳥の卵も食べます。

へびの歯はするどく、すべて口の中の方を向いています。大きな獲物も大きな口と左右に広がる肋骨により飲み込むことができます。

●生息環境

極地以外のひろい地域にすみ、海、平地から4,000mの高地の森林・草原・湿地・川・砂漠で生活しています。寒くなる地方のへびは冬眠します。

●繁殖

へびの約4分3が卵を産み、卵は1～数10日間をかえり子へびが産まれます。マムシなどは体内で膜につつまれた卵を育てて、子へびを産みます(卵胎生)。

●毒へび

約300種が強い毒をもつ危険なへびです。その多くは熱帯・亜熱帯地域にすんでいます。日本では12種のへびが有毒ですが、マムシとハブの事故が多いようです。

毒へびに咬まれたらすぐ傷口から毒を含んだ血液を吸いだし、なるべく安静にして、すぐに病院に行くことです。手遅れでなければ抗毒血清があるので大丈夫です。



※2 マムシ

●日本にすむへび

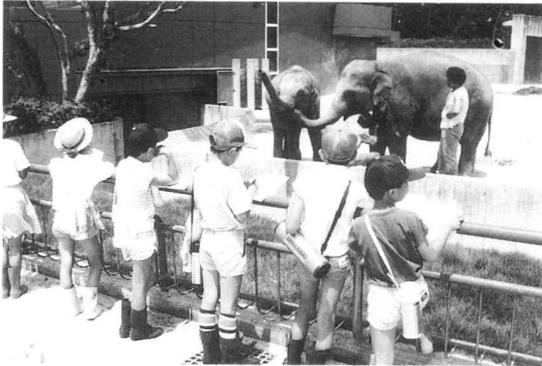
日本には、32種のへびがすんでいます。北海道・本州・四国・九州、には11種しかすんでおらず、その他は沖縄・奄美・西表などの南西諸島にすんでいます。千葉県には、マムシ・アオダイショウ・ヤマカガシ・シマへびなど計7種がすんでいます。

写真提供 ※1 大 高 成 元

※2 (財)日本蛇族学術研究所

第5回サマースクール

The Fifth Summer School



テキストに観察したことを記入していきます。



好物の葉をあげます。



楽屋裏です。



全員でエサ作りをします。



ビニール袋の中はゾウの1回分のウンチです。



飼育係のお兄さんから説明を聞いています。



ヒツジの毛から毛糸を紡ぎます。

第5回サマースクールが、好天にめぐまれ7月26日～28日の3日間、145名が参加して開催されました。

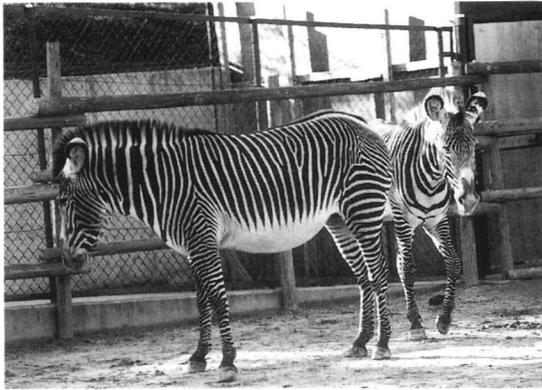
動物舎のそうじ、エサ作りと初めてのことに驚き歓声をあげながらも、みんな一生懸命に作業をしてくれました。このサマースクールが、みんなのいい思い出になればと思っています。

グレビーシマウマの出産

A delivery of the Grevy's Zebra

当園では、グレビーシマウマを二次開園（1988年・春）より、雄1頭・雌4頭、計5頭飼育しています。このうち、雌（ナツメ）8才が昨年12月23日の未明に雄（アオ）39kgを出産しました。

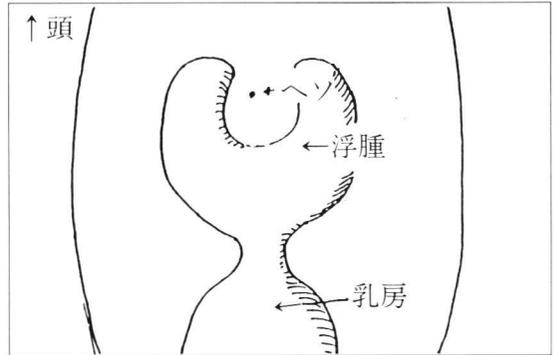
当園にナツメがやって来たのは1988年の2月。出産をしたのが同年12月。グレビーシマウマの妊娠期間は平均12.5ヶ月。実は来園時には既に妊娠していたのです。他園の報告によると腹の大きさが目立ち始めるのは大体8ヶ月からということですが、ナツメの妊娠を



妊娠中のナツメ

確信したのは10月の中旬、既に10ヶ月目に入っていました。これは、当園では草食獣に牧草を与え、夏場だけはソルゴーというトウモロコシの葉に似た作物を与えていますが、実は当園のグレビーシマウマは牧草は良く食べますが、このソルゴーは好きではないようで与えてもあまり食べません。このため、10月初めにソルゴー給餌の期間が終わり牧草に切替わったことにより、採食量が一挙に増えた形になり、それまで採食量不足で遅れていた胎児の成長が急激に進んだのではないかと思います。これ以後腹の大きさは日増しに大きくなって行きました。他園における妊娠に伴う種々の徴候の変化の報告と照らし合わせ観察していたところ、遅れていた徴候が立続けに出現し、新しい徴候が現われる度に出産予定日が繰り上がる始末でした。

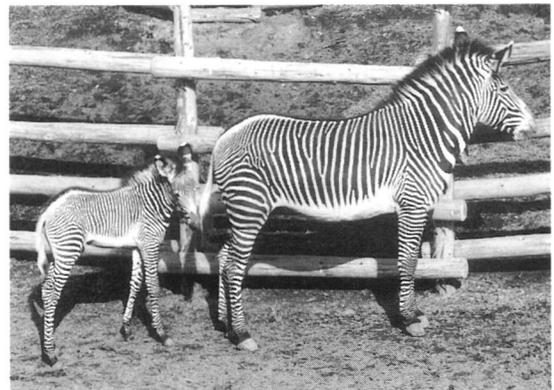
この妊娠に伴う徴候のうち、特に興味深かったのは11ヶ月以降に下腹部に現われる〔ヘルニア様の浮腫〕の観察でした。これは図のような型で、乳房側から臍を取り囲むように膨れてきます。感触はかなり軟らかく、皮膚の下かなり浅い所に液体のようなものが溜っているような感触でした。この時期の乳房は既にかなり張って堅くなっています。また、ナツメの場合この浮腫は出産までの間に数回現われたり消えたりを繰り返



腹部を下から見上げた図

返しました。そして1日の内で見ると、朝に最も大きく、夕方に最も小さくなる事も今回の観察で確認できました。

この浮腫はグレビーシマウマ以外でも観察されていて、ある園のグラントシマウマでは、この浮腫が現われる個体から生まれる仔は比較的大きく、母親自身の乳の出も良いらしいという事でした。この事と、充分運動をした後の夕方の方が、じっとしていた朝より浮腫が小さくなるという事から、この浮腫は何か栄養的



ナツメとアオです。

なものが関係しているのではないかと推察しています。例えば、胎盤もしくは乳房への栄養分の輸送において、その過剰分が浮腫として溜るのではないかと考えますが、まだまだ確証はありません。

今回の出産において、下腹部の浮腫についてかなり詳しい観察ができ、多くの事がわかりました。今後ともこの浮腫について追跡して行きたいと思います。

(清田義昭・Yoshiaki Kiyota)

動物公園の動物⑥

Animals in the Chiba Zoological Park

～フタコブラクダ～

Bactrian Camel

ラクダには、フタコブラクダとヒトコブラクダがあり、又、こぶのないビクーナ、ラマなどもラクダの仲間です。家畜の原種ゾーンには、フタコブラクダとビクーナが飼われています。

今回の主役は、フタコブラクダです。野生のものは、ほとんど絶滅したと思われ、現在見られるものは、家畜化されたものだとされています。ラクダと言えば砂漠を連想するように、昔から砂漠で生活する人々にとっては欠かせない重要な家畜でした。今から2,500年ほど前からすでに家畜化されていたと言われています。

こぶまでの体高は190～230cm、体重は450～650kgと、大変に大きな動物で、「砂漠の船」とも言われたラクダは、砂漠への驚くべき適応能力をこの大きな体のいろいろな部分に備えています。一番の特徴であるこぶの中身は水ではなく、脂肪なのです。水や草の少ない砂漠での食料不足の時のエネルギーの貯蔵庫になっています。このこぶは生まれたばかりのラクダでは空っぽの袋のようなたるんだ皮膚があるだけです。おとなの



ラクダでこぶが張りきっている時には、60kg以上の脂肪がつまっています。又、耳にも毛がはえていること、まつ毛の長いこと、鼻孔が自由に開閉できることなどは、砂嵐のときなどに、大変な効果が発揮されます。この他にも砂地を歩くのに適した肉質の足裏をしています。フタコブラクダの妊娠期間は390日程で、一産一子が普通です。

現在、当園で飼われている雄（カイ）、雌（クイ）はとても人なつこく、私達飼育係の言うこともよく聞いてくれます。お客さんのそばまでいって挨拶することもしばしば見られますので、その時は、カイとクイに声をかけてやってください。

（古谷 保生・Yasuo Furuya）

動物公園の施設⑥

Facilities of the Chiba Zoological Park

～鳥類・水系ゾーン～

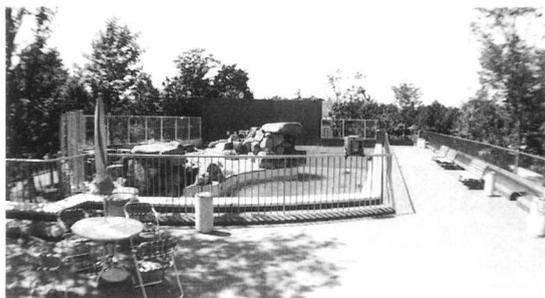
Avian and Aquatic Zone

動物公園のいちばん奥の鳥類・水系ゾーンの南側の一角には、アシカ（カリフォルニアアシカ）とペンギンが4種類展示されています。

ここには、陸上での生活を観察できる普通的水上通路の他に延長86mの地下通路があり、水中での生活も観察できます。

まず、アシカの水上通路を上がってみましょう。アシカの4本の足はひれ状になっています。でもこの足を左右交互に出し、首で体のバランスをとりながら、ゴロゴロとした石の上や岩の階段の上も器用に歩きます。またときどき追かけ合いなどして歩くスピードが速くなると、左右の前足を同時に動かし、そして後足も左右同時に動かし馬の「ギャロップ」のような走り方をすることもあります。ダイビング岩（ここから水中へダイビングする時は迫力があるので一特に体の大きい雌は）に4頭枕を並べて寝ている時も「なんだ、寝ているのか、つまらない」というのでなく耳をすましてみましょう。よく「グーグー」と大きないびきをかいています。また寝ぼけた動作もおもしろいものがあります。

次に地下通路へ降りてみましょう。このアシカ池は、



園内で水量が最も多く、水深は3mあります。

アシカは、前足をオールのように左右同時に大きく水をかいて泳ぎます。後足は、かじの役割を果たしています。泳ぐ速さは、陸上での動きの比でなく、速く泳ぐことができます。また手前のガラスの方へ寄ってきて、人に興味を示すことがよくあります。

ペンギン池には、イワトビペンギン・ケーブペンギン・ジェンツーペンギン・マカロニペンギンの4種類の住人がいます。

ペンギンは、左右の翼（フリッパー）を使って水中を「飛ぶ」ように泳ぎますが、泳ぎが最も速いのは、いちばん体の大きいジェンツーペンギンです。

このペンギンは、陸上に上がる時水中からジャンプして出ます。イワトビペンギンとマカロニペンギンは、水上にブカブカ浮いています。ケーブペンギンは、池の底に落ちたエサのアジを嘴を使って器用に食べます。

（中村 誠・Makoto Nakamura）

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

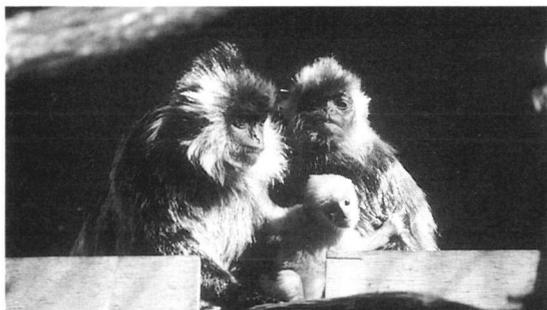
'89年 2月 1日～'89年 7月 31日

2月2日 エリマキキツネザル（雄1頭）アメリカサンディエゴ動物園より受贈

2月3日 アクシスジカ繁殖（雄1頭）



2月4日 ダマワラビー繁殖



2月4日 シルバールトン繁殖（雄1頭）

2月5日 「親と子の動物折り紙教室」開催

2月6日 係内飼育研究会「フンボルトペンギンの人工育雛について」

2月10日 アビシニアコロボス繁殖（雄1頭）

2月15日 第17回飼育技師資格認定試験実施（当園職員9名受験）

2月18日 イワトビペンギン4羽新着

2月19日 ミーアキヤット繁殖（1頭）

2月21日 ケープペンギン2卵産卵してあったが中止卵であった。

2月27日 フンボルトペンギン産卵

3月1日 セキショクヤケイ人工ふ化（4羽）

3月5日 アクシスジカ繁殖（雄1頭）

〃 アジルマンガベイ死亡

3月6日 係内飼育研究会「ミーアキヤットについて」

3月9日 ビグミーモセット繁殖（3頭）

3月10日 ミーアキヤットの仔初めて巣穴から出てくる。

3月12日 ダマワラビーの仔育児のうから初めて外に出る。



ミーアキヤットの仔

3月13日 スローロリスの仔（1頭）緊急保護（通産省より）

3月14日 ミニブタ（雄・雌各1頭）川崎市野川文化センターへ寄贈

3月15日 サカツラガン1羽死亡

〃 ヘビクイワシ1羽新着

3月16日 コガモ（雄）1羽一般保護

3月18日 獣医実習生受入れ（1名）

3月19日 コモンマーモセット繁殖（1頭）

〃 ムフロン繁殖（1頭）



3月18日 「春のZOOクイズラリー」開催

3月21日 フクロウ一般保護

3月22日 ユリカコメ一般保護

3月23日 キタヤマドリ（雄・雌各1羽）秋田市大森山動物園より受贈

〃 獣医実習生受入れ（1名）

3月25日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催

3月26日 コモンマーモセット雄1頭秋田市大森山動物園へ寄贈

3月28日 コジロヤマドリ4羽鹿児島市平川動物公園より寄贈

3月29日 エリマキキツネザル1頭動物交換で搬出

3月31日 カンムリヅル死亡

4月1日 ヨツツノヒツジ繁殖（1頭）

4月2日 ワタボウシバンシュ繁殖（2頭）

4月4日 オオカナダヅル雌1羽鹿児島市平川動物公園へ寄贈

4月5日 ミニブタ繁殖（6頭）

4月10日 フンボルトペンギン（1羽）自然ふ化

〃 係内飼育研究会（グレビーシマウマの出産

- について)
- 4月12日 ヒオドシジュケイ死亡
 - 4月17日 春のニューカッスル予防接種
 - 4月19日 ケープペンギン2羽動物交換で新着
 - 〃 ヨザル、ミーアキャット動物交換で搬出
 - 〃 エリマキツネザル繁殖(1頭)
 - 4月22日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催
(グレビーシマウマ)
 - 〃 ベニイロフラミンゴ1羽新着
 - 4月23日 千葉テレビ主催の写生大会開催
 - 〃 ノウサギの仔1頭一般保護
 - 〃 カピバラ繁殖(4頭)
 - 4月25日 ヒツジの毛刈を順次開始
 - 4月26日 ニシクロシロコロブスサル比較舎で展示開始
 - 5月2日 ホンドタヌキ死亡
 - 5月4日 シマウマ日本脳炎予防接種
 - 5月6日 ビントロング(1頭)、インドジャコウネコ
(2頭)緊急保護(通産省より)
 - 5月8日 科学館バードホールにソウシチョウ14羽を
展示する。
 - 〃 モウコノウマ、チゲタイ日本脳炎予防接種
 - 5月10日 オウギアイサ(4羽)自然ふ化
 - 5月11日 オオカナダヅル(雄1羽)アメリカパテク
セント野生生物研究所より受贈
 - 〃 ルーセットフルーツコウモリ1頭出産して
いたが母親は死亡する。
 - 5月12日 モウコノウマ仔全身夏毛に換る
 - 〃 スローロリス(3羽)緊急保護死亡
 - 5月14日 「愛鳥週間特別講演」開催



左・ベニバシガモ 右・サカツラガン

- 5月14日 ベニバシガモ4羽人工ふ化
- 5月16日 千葉市新規採用職員職場体験研修
(18名) ~19日
- 5月18日 サカツラガン3羽人工ふ化
- 5月19日 スレンダーロリス繁殖(1頭)
- 5月20日 レッサーバンダ3頭新着
- 5月21日 コモンマーモセット2頭新着
- 5月22日 ムネアカタマリン繁殖(3頭)
- 5月23日 ニホンリス、ハコガメ一般保護
- 5月24日 第76回関東東北ブロック飼育技術者研究会

に飼育職員2名出席(於:恩賜上野動物園)

- 5月25日 オウギアイサ8羽人工ふ化
- 6月3日 セイロンヤケイ2羽自然ふ化



- 6月4日 「第4回動物を計る会」開催
- 6月6日 ヒドリガモ死亡
- 6月7日 ハシボソミズナギドリ保護(今年3件目)
- 6月11日 「羊の毛刈りと紡毛教室」開催
- 〃 アオサギ保護、15日に放鳥
- 6月15日 アメリカアカリス繁殖(2頭)
- 6月16日 アカコンゴウインコ自然ふ化(2羽)
- 6月17日 ショウガラゴ繁殖(1頭)
- 6月18日 ハシヒロガモ3羽自然ふ化
- 6月19日 アカテタマリン繁殖(2頭)
- 〃 ヤギ及びヒツジ全頭腰麻痺予防注射
- 6月21日 ハシヒロガモ2羽人工ふ化
- 6月26日 シロガオマーモセット、マカロニペンギン
動物交換で新着
- 6月29日 保護のハコガメ東京都恩賜上野動物園に所
換替え
- 6月30日 クロザル2頭購入で新着
- 7月4日 ケープペンギン1羽人工ふ化
- 7月5日 一般保護のバンの卵8羽ふ化
- 7月6日 シバヤギ2頭東京都恩賜上野動物園より受
贈
- 7月7日 ツメバガン死亡
- 7月10日 ウシ3品種動物交換で仔牛に取りかえる
- 7月11日 セキショクヤケイ2羽自然ふ化
- 7月12日 アフガンナキウサギ死亡
- 7月14日 ヤク繁殖(1頭、第3子目)
- 7月16日 オセロット繁殖(1頭)
- 7月20日 ケープペンギンの卵2卵孵卵器に入れる
- 7月25日 博物館実習生(4名)、獣医実習生(1名)
受入れ
- 7月26日 「第5回サマースクール」開催(~28日まで)
- 〃 セスジクスス繁殖(1頭)
- 7月27日 ベニバシガモ4羽自然ふ化
- 7月28日 セキショクヤケイ3羽川崎市夢見ヶ崎動物
公園に寄贈
- 7月29日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催
(イヌワシ)

飼育よもやま話

Animal Episode

フクロテナガザルの1日

A day of Siamangs

モンキーゾーンの一画に配置されている、ひょうたん型をした池の中にある二つの島のうちの一つに、フクロテナガザルが2頭展示されています。

フクロテナガザルは類人猿の仲間で、とても頭がよく、手や足を器用に使い分けますが、野生動物としては、極めて珍しい泳ぐことのできない動物なのです。

ですから、島から泳いで外に出るといことは、まずありません。また、水にぬれることをひどく嫌うようです。

フクロテナガザルの一日は、朝、獣舎（寝室）から池の中にある島（放飼場）に出ることから始まります。

島に出る出入口の扉を開け、リンゴ・バナナ・サツマイモなど、前もって切っておいた餌を、島の中に投げてあげます。すると、フクロテナガザルは、獣舎と島をつなぐ橋を渡り、地上を、両手を上に上げて、不格好なようすで二足歩行しながら餌がある所まで行き、そこに座りこんで、丸くなり餌を食べ始めます。

餌を食べおわると、すぐに木に登るか、ピンク色の鉄パイプで作られた、腕渡り用の遊具にぶらさがるなどして、地上からはなれます。



昼間は暑い日差しをさけ、日影に入って休んでいるか、腕渡り用のパイプにぶらさがり、すごい速さで腕渡りをしたり、木から木へと飛びうつるなどして過します。

また、朝や夕方、よく、独特な声で叫びます。

フクロテナガザルの口の下、ちょうど喉のあたりに大きな袋があり、そこで共鳴させて大きな声をだすわけです。叫び声は、雄は甲高い叫び声、雌は約18秒間続くほえ声を連続的に発します。

夕方、島に出ているフクロテナガザルは、獣舎（寝室）に入り、フクロテナガザルの1日は終わります。

(中村 智行・Tomoyuki Nakamura)

ムフロンの母親と子供

Mother and baby Mouflons

動物公園の家畜の原種ゾーンにムフロンを展示しています。暖かい春の季節が訪れますと、おなかの大きいムフロンの雌が、放飼場やムフロン舎の室内で子供を産みます。ムフロンは、群れで生活していますが、雌が子供を産んだ時は、群れから離れてムフロン舎の室内で母親と子供だけにしてあげます。この産まれたばかりの子供は、まだ体がしっかりしていませんし、母親も精神的に弱っていますので、一時的に群れから離れます。この子供が成長し、しっかりしてきましたら、母親と子供を群れと一緒にしてあげるのでありますが、群れと一緒にした日や次の日は、よくこんな事が起こります。夕方、ムフロンを放飼場から室内に入れる時の出来事ですが、子供は、出入口をまだよく知りませんので、母親を頼りにしているのですが、その頼りにしている母親が、先に室内へ入ってしまった時、子供の鳴き声で室内から飛び出して、子供の所へ走って行きます。時には、こんな母親もいました。室内に入ったきり、大きい声で何度も子供が鳴いていても、室内から飛び出して行く様子がありません。その母親は、夢中でえさを食べていて、子供の鳴き声も聞こえてい



ないようで、まったく困った母親ですね。

皆さんは、ムフロンが家畜のヒツジの原種となった、野生のヒツジと言われていることは御存じでしょうか。生まれたばかりのムフロンの子供を初めて見た時、あの小さな体にしては足が長いと思ひまして、数日後、子供動物園のコンタクトエリアにいる家畜のヒツジの子供を見にいきました。そして、家畜のヒツジの子供を見たのですが、ムフロンの子供に比べてそんなに足が長く感じられませんでした。

家畜の原種ゾーンと子供動物園は、それほど遠くありませんので、皆さんもムフロンと家畜のヒツジを比べて観察して、いろいろと発見してみたいはいかがでしょうか。
(千葉 茂・Sigeru Chiba)

健康管理センターから

From the Animal Health Center

或る夜の出来事

A story of one night

その部屋は、健康管理センターの奥のおく、いちばん奥まった所にあります。表札は「解剖室」と出ています。命あるものいつかは死ぬわけで、病気や老齢で死んだ動物の死因の究明がおこなわれるのです。

暗い話で恐縮ですが、園内で死んだ、あるいは死体が発見された、野生の鳥獣も、防疫の見地から、解剖を行います。

その夜も、(昼間は忙しいので、解剖は夜行われることが多いのです)スズメとハムスターの解剖をしていました。外は暗くなってきて、園内からは遠く動物の声が聞こえてきます。園内に残っているのは解剖をしている私と、外にいる守衛さんだけ。なのに病院の廊下でペタペタと足音が聞こえたような気がして、ぎょっとしました。ドアをあけると……………だれもいません。「ゆうべ、ホラー映画なんか見るんじゃないか…」

後悔先に立たずと申しましょうか、でも、幽霊なら足がないから足音はしないはずだからと思っておし、

スズメの解剖を続けました。

ペタペタペタ……………。そんなバカな！ドアの外にはだれもいない！やっぱり生命保険にはいっておけばよかった。明日の新聞の事件欄にのるのかな。でも僕の死体が発見されるのは明日の朝だろうから、夕刊にのるのかな。でも幽霊なんかには殺されてたまるか！思わずメスを持つ手に力を込めて、廊下のドアをにらんでいると、またペタペタペタ……………。

メスを逆手につかんでドアをボタンとあけると、だれもいず、暗い廊下が続いているだけ……………と、足元からペタペタペタと音がして、見るとどこからはいつてきたのか5cm程のカエルが歩いています。この足音が廊下に響いて、人の足音のような音を出していたのでした。

「こいつめ、よくも人をおどかしやがって！」私はおりましたが、よく考えてみると、勘違いをした私が悪いわけです。

カエルは解剖台にのることもなく、無事に大池へと帰りました。めでたしめでたし。

(市川 心一・Shinichi Ichikawa)

動物公園グラフ発行！

動物公園の動物たちを写真とワンポイントガイドを入れて一冊のガイドブックにまとめました。大人から子供まで楽しく、そして興味深く御覧頂けると幸いです。ガイドブック片手に園内見学をされてはいかがでしょうか。お求めは各売店、科学館案内へ。

B 5版 48P 定価820円(税込み)



お知らせ

千葉市動物公園は二次開園に引き続き、最終整備施設としての遊園地建設に本年度から着手するなど業務量の増大に伴い、今般園長職を部長相当職に格付し組織強化を図りました。このため8月1日付で下記のとおり人事発令がありました。

記

新 職	旧 職
動物公園長	千田通男(土木部技監)
副 園 長	宗近 功(動物公園長)

平成元年度(後期)行事予定

行 事 名	時 期	内 容
特別展「家畜と人間」	10月1日～	人間生活の中で家畜の果たしてきた役割を紹介します。
親と子の自然と遊ぶ教室	10月15日	落葉や木の実などを使い、自然と親しむ教室を行います。
秋のZOOクイズラリー	11月5日	園内の動物のクイズを行います。
動物公園写真コンクール	11月1日～30日	入選作品の展示を行います。記念講演会及び表彰式(11月12日)
動物公園のクリスマス	12月3日	クリスマスにちなんでツリーやカードを作ります。
新春特別展	1月4日～31日	干支にちなんだ動物をパネルで紹介합니다。
バードウォッチング	1月上旬	園内の野鳥の観察を行います。
ゆかいな森の音楽会	2月上旬	動物たちの鳴き声などを楽器で演奏します。
春のZOOクイズラリー	3月上旬	園内の動物のクイズを行います。
動物公園ワンポイントウォッチング	毎月第4土曜日に実施	動物公園の最新の話と動物のワンポイントガイドを行います。



ショウガラゴ